

# インドネシア自動車・部品産業 2014

## 200万台市場への対応急ぐ完成車/部品メーカー

■ 発刊：2014年1月 ■ 体裁：A4判、229頁+CD ■ 価格：140,000円+税 国内送料込



- ◆ 急激に成長するインドネシア自動車市場の中長期的な成長可能性を検証!!
- ◆ 日米欧韓など自動車メーカー19社の事業体制、製品動向、事業戦略を報告!!
- ◆ 現地進出Tier1サプライヤー87社の事業体制、最新の事業動向を詳報!!
- ◆ 自動車メーカー、サプライヤーなど第一線の業界関係者のインタビューを掲載!!
- ◆ 主要工業団地情報、サプライヤーダイレクトリー(200ヵ所以上)を付属CDに収録!!

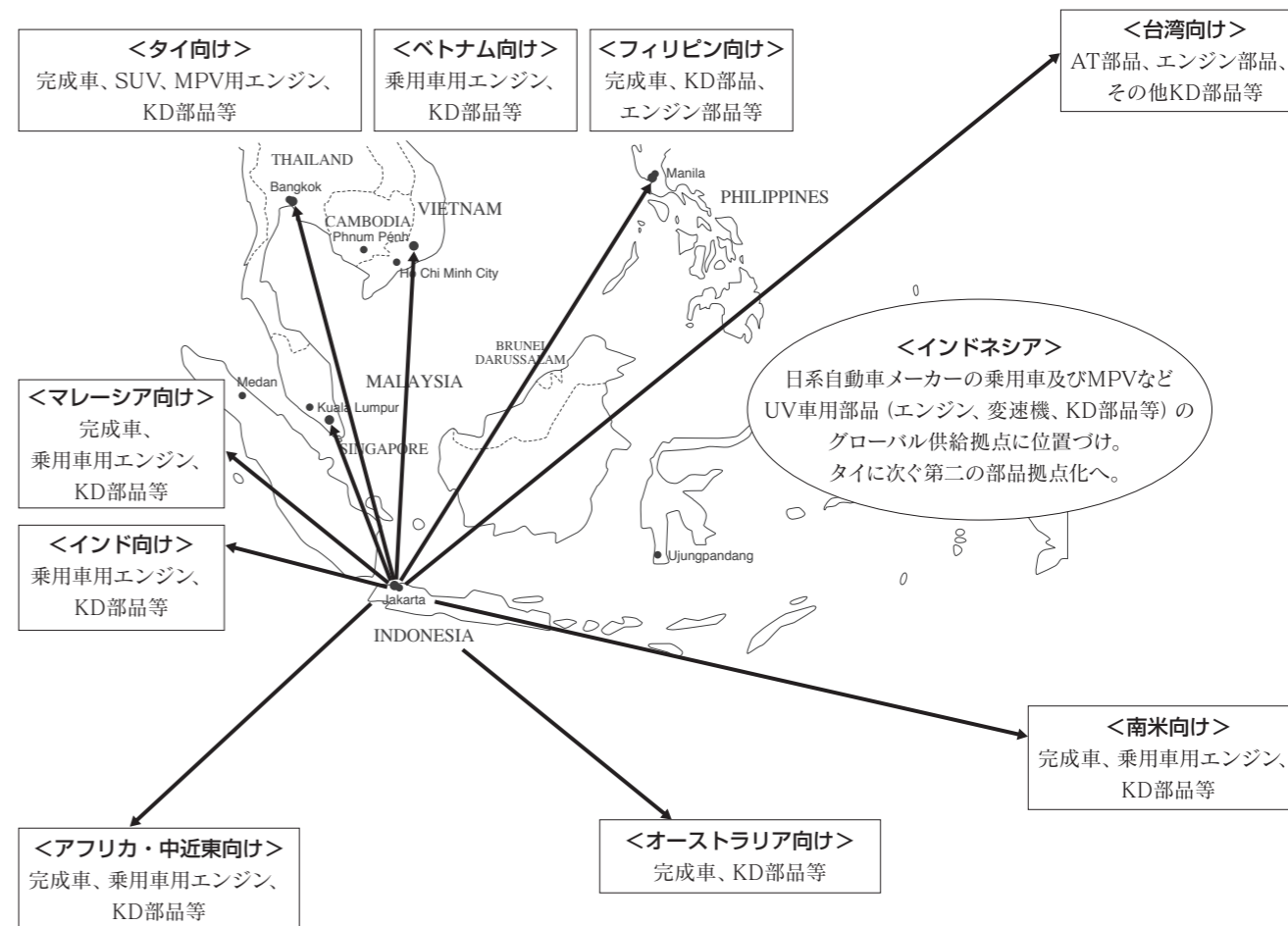
インドネシアの自動車市場は2012年に100万台を突破し2013年には120万台を超える見通しです。2013年9月には政策により価格を引き下げたLCGC政策対応モデルが投入されました。従来の乗用車の最低価格が1.3億ルピア程でしたが、LCGCの最廉価のモデルでは8,000万ルピア以下(60万円台後半)のモデルもあり、月収5万円の所得層まで購買可能層を広げています。このままのペースで経済成長が続けば、200万台市場への成長も視野に入ってきます。ただ一方、直近の通貨安による燃料や材料価格の上昇、通貨安に対応する金利の引き上げなど自動車需要にとってマイナスとなる材料も出て来ています。また交通面を中心としたインフラの整備、地方経済の発展など中長期的な成長に向けた課題も残されています。

旺盛な内需に牽引される形で自動車生産も拡大、今後も自動車市場の成長に比例する形で拡大が続くことが見込まれています。LCGC政策で求められていることもあります。コスト競争力を強化する為、自動車メーカーは現地調達率の引き上げに力を入れています。一段の現地化の深化へ今後はTier2以下のサプライヤーや原材料サプライヤーの進出が活発化すると見られます。

インドネシア自動車・部品産業2014では、現地業界関係者のヒアリング等を元に自動車市場の中期的な成長性や今後の課題を検証しました。さらに進出自動車メーカーや自動車部品メーカーの最新の事業動向のほか、政治・経済・人口・自動車産業政策などの基礎情報を1冊に網羅しています。また現地調達の深化に向けて有用なTier2以下のサプライヤーの事業情報も収録しました。

当案内書をご高覧の上、是非ご購入賜りますようお願い申し上げます。

### 【インドネシア自動車産業の役割及び位置づけ】



第7章 タイ向け

小規模調達拡大とローカルサプライヤー育成の両輪で、コスト競争力を強化

ダイハツはコスト競争力の強化に向けて、現地調達率の拡大とローカルサプライヤーの育成の2本柱で取り組んでいる。2013年9月に投入したAylaはLCGC高効率の要件として現調達の規模があることあり、現地調達率80%を達成している。Aylaの立ち上げに当たり、ダイハツは、新たに36社と取引を開始。その中の数社は、サプライヤーを指して調達を希望する部品を提案し、調達先を募集する意見書などの活動を満ちて実施した100%現地のサプライヤーであった。また2013年度に既調達のコンシグ

するエンジンの積込部品の調達率を9割程度から9割に引き上げることでコスト競争力の強化を図る。現地調達率拡大の取り組みと並行して、ローカルサプライヤーを対象に品質や生産技術に関する相互研修会を開催して、ローカルサプライヤーの技術力の向上を目指している。低コストと安定な品質を両立することでサプライヤーを育成し、今後の需要拡大に備える。

これに加えて、2012年10月に稼働したKarawang組立工場と2013年度に稼働予定の新工場生産ラインには、最新鋭のコンパクト生産ラインなどの生産技術を導入。生産体制の引き上げによる生産コストの引き下げで競争力を強化している。

【ダイハツ、インドネシア自動車市場進出の経緯】

1992年、タイ向けに「Ayla」を開発。2013年9月に投入。LCGC高効率の要件として現調達の規模があることあり、現地調達率80%を達成している。Aylaの立ち上げに当たり、ダイハツは、新たに36社と取引を開始。その中の数社は、サプライヤーを指して調達を希望する部品を提案し、調達先を募集する意見書などの活動を満ちて実施した100%現地のサプライヤーであった。また2013年度に既調達のコンシグ

【ダイハツ、インドネシア自動車市場進出の経緯】

1992年、タイ向けに「Ayla」を開発。2013年9月に投入。LCGC高効率の要件として現調達の規模があることあり、現地調達率80%を達成している。Aylaの立ち上げに当たり、ダイハツは、新たに36社と取引を開始。その中の数社は、サプライヤーを指して調達を希望する部品を提案し、調達先を募集する意見書などの活動を満ちて実施した100%現地のサプライヤーであった。また2013年度に既調達のコンシグ

『第7章 自動車メーカーの事業動向』より

第8章 Morita Tjokro Gearindo

【事業概要】 PT. Morita Tjokro Gearindo(以下、MTG)は、自動車部品・機械修理など多様な事業を手掛ける現地系 Tjokro グループ 100%出資のサプライヤーである。同社は、二輪車・四輪車、商業機械、産業機械向けの製造部品を製造しており、インドネシアでは最大規模を誇る。二輪車・自動車(主にトラック)部門では、エンジンや変速機用ギア、ブレイクホール、シャフトなどを製造し、日系完成車・部品メーカー向けに供給する。

MTG は2001年、インドネシアのジャカルタに設立され、その一環として Karawang 県に新工場を建設する計画が出ている。105タ(CMMINI) ダイハツ(ADM)など日系完成車メーカーが集中している地域でもあることから、新たな受注獲得を狙っていると考えられる。

また、技術面でのレベルアップも目指しており、既存製品以外の高級技術部品を開発・製造できるパートナーにも注力している模様。新たな製品分野の開拓を前に、売上拡大につなげている。

【Morita Tjokro Gearindo, インドネシア市場進出の経緯】

1981年、ジャカルタに設立。1982年、PT. Morita Tjokro Gearindo(MTG)を設立。1983年、PT. Dikorek Indonesiaを設立。1984年、PT. Polaris Indonesiaを設立。1985年、PT. Yekt Gear Indonesiaを設立。1986年、PT. Tjokro Gear Indonesiaを設立。1987年、PT. Jaya Indah Castingを設立。

【ダイハツ、インドネシア自動車市場進出の経緯】

1992年、タイ向けに「Ayla」を開発。2013年9月に投入。LCGC高効率の要件として現調達の規模があることあり、現地調達率80%を達成している。Aylaの立ち上げに当たり、ダイハツは、新たに36社と取引を開始。その中の数社は、サプライヤーを指して調達を希望する部品を提案し、調達先を募集する意見書などの活動を満ちて実施した100%現地のサプライヤーであった。また2013年度に既調達のコンシグ

『第8章 自動車部品メーカーの事業動向』より

当調査報告書は書店では取り扱っておりません。お申し込み、お問い合わせは、申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送下さい。またE-mail (info@fourin.jp) による受付も行っております。

世界自動車産業専門調査会社 **FOURIN** (フォーイン)

〒464-0025 名古屋市中千種区桜が丘292 フォーインビル  
TEL : 052-789-1101 FAX : 052-789-1147  
http://www.fourin.jp E-mail : info@fourin.jp

**申込書** **インドネシア自動車・部品産業 2014** (HP)  
● 体裁:A4判/229頁+CD ● 2014年1月発刊  
 現物案内を希望します

価格 140,000円+税 国内送料込

(株)フォーイン行 **ダイヤル** Fax: 0120-0000-73

年 月 日

御社名 \_\_\_\_\_

御利用部署名 \_\_\_\_\_

〒 \_\_\_\_\_

御住所(送付先) \_\_\_\_\_

TEL 番号 \_\_\_\_\_ FAX 番号 \_\_\_\_\_

E-mail address \_\_\_\_\_

(フリガナ) 御担当者氏名 \_\_\_\_\_ 御役職 \_\_\_\_\_

通信欄 \_\_\_\_\_



**第1章 総論** ..... 1  
 底堅い経済成長を背景に2018年の200万台市場も視野に、300万台への成長には地方の経済成長とインフラ整備が必須 ..... 2

**第2章 インドネシアの概況** ..... 23  
 1. 世紀転換期の政治体制の変化とともに急速に経済が発展、政治的な安定と持続的な発展が求められる ..... 24  
 2. 2000年代後半以降、堅調な経済発展を実現、国民一人当たりGDPは4,000ドル突破も視野に ..... 28  
 3. 2012年は約40万人ぶりに貿易赤字に転落、国別ではASEANへの依存度高まる ..... 30  
 4. 世界第5位の人口規模、2013年には2億5千万人を突破する模様 ..... 31  
 5. EPA発効によって輸出入の利点は拡大するも、インフラの不備と労働コストの急上昇が懸案事項に ..... 33  
 6. LCGC導入で国内自動車産業育成を図り、2025年までに400万台生産をめざす ..... 35

**第3章 自動車市場の概況** ..... 37  
 1. 堅調な経済発展と賃金上昇を背景に自動車市場は100万台を突破、低価格車で更なる拡大に期待 ..... 38  
 2. 低率な奢侈税と多人数乗車需要から小型MPVが人気、LCGC政策の後押しで小型ハッチバックの需要増に期待 ..... 44  
 3. 価格上限設定と奢侈税免税による価格1億ルピア前後のLCGC対応車の取扱で車両平均価格は低下の見通し ..... 48  
 4. 販売網、Jakarta中心にジャワ島6割占める、ジャワ島以外の店舗整備と店舗網の1ストップサービス化を推進 ..... 50  
 5. 保有率は74台と世界平均の半分で潜在性は大きい、人口と経済基盤が集中するジャワ島の販売は7割占める ..... 51

**第4章 自動車生産の概況** ..... 53  
 1. 好調な内需拡大に牽引され、自動車生産は2012年に初めて100万台を突破 ..... 54  
 2. LCGC政策の始動による日系メーカーの生産体制構築が加速、Jakarta周辺での新工場の展開が活発 ..... 56

3. LCGC対応で生産能力は2015年に200万台超、トヨタ、ダイハツなど日系を中心に設備投資が活発 ..... 60  
 4. 日系の能力増強やパワトレ等の現地化進展、日系以外では2014年をめどに現地生産拠点の展開を本格化 ..... 61  
 5. 2012年の自動車輸出は過去最高の17.5万台、ボリュームモデルの生産が難しいこと等から今後の輸出拡大は限定的 ..... 65

**第5章 二輪車産業の概況** ..... 67  
 1. 販売：ローン融資基準の厳格化等で一時的には低迷するも中長期的には1,000万台市場へ ..... 68  
 2. 生産：2013年生産は800万台弱、2014年以降に年産能力は1,000万台超えの見込み ..... 70  
 3. ホンダ：シェア7割目指し、AT車の生産能力増強とともに、スポーツタイプも強化 ..... 71  
 4. ヤマハ：シェアは34%に留まりホンダとの差が拡大、販促活動を積極化しテコ入れへ ..... 74  
 5. スズキ：シェアは6%に低下、低燃費製品の投入でシェア低下に歯止め掛ける ..... 76

**第6章 自動車部品産業の概況** ..... 79  
 1. 自動車部品貿易、市場急拡大でサプライチェーン整備が追いつかず貿易赤字が拡大 ..... 80  
 2. Jakarta-Cikampek高速道路沿いの工場団地にサプライヤーが集積 ..... 85  
 3. 素材やTier2/3部品から基幹部品までサプライヤーの進出が本格化 ..... 86

**第7章 自動車メーカーの事業動向** ..... 97  
 1. トヨタ：MPVに次ぐ新たな柱として小型車の投入を積極化シェアトップ死守へ ..... 98  
 2. ダイハツ：小型車中心にラインアップを拡充しモータリゼーション需要を確実に確保 ..... 104  
 3. スズキ：生産・販売とも10万台を突破、中期的には販売台数30万台を目指す ..... 110  
 4. 三菱自：商用車中心の事業体制からの脱却を目指す、乗用車事業拡大に向けた製品ラインと販売網を強化 ..... 114  
 5. ホンダ：年間販売30万台に向け、低価格小型MPVとLCGC対応のBrio Satyaの投入で顧客層を拡大 ..... 118  
 6. 日産：2016年度販売台数20万台に向け、2014年にDATSUNブランド車販売開始 ..... 122  
 7. いすゞ：新興国向けトラックの重要拠点として位置付け、2014年末には新工場が稼働 ..... 126  
 8. 三菱ふそう：小型トラック市場でのシェア首位堅持と共に中大トラック取扱で事業基盤を強化 ..... 130

9. 日野：小型トラックの中核拠点として基幹部品現地化による価格競争力強化で低価格を中国勢に対抗 ..... 132  
 10. マツダ：2015年の販売目標は富裕層を狙って3万台、SUV/MPVを拡充するほか、店舗網を強化 ..... 134  
 11. 富士重：Tan Chong Internationalグループと協業、強みのSUVとスポーツで富裕層を攻略 ..... 135  
 12. 現代自：韓・インドネシアCEPA妥結の前提として現地工場の設立要求が顕在化、取扱への新たな分岐点 ..... 136  
 13. 起亜：持続的な製品拡充で販売は年1万台に拡大、更なる成長に向けて新車投入を加速し、需要取り込みを図る ..... 138  
 14. Tata Motors：2013年9月に市場参入、日系メーカーの隙間を狙ってプレゼンス確保を狙う ..... 140  
 15. GM：2020年市場シェア10%確保を目指す、組立工場を再開、ボリュームゾーンへ小型MPVを投入 ..... 141  
 16. Ford：プレゼンス拡大へ、小型車ラインアップを拡充、現地生産拠点の開設も検討 ..... 143  
 17. Mercedes-Benz：高級車シェアトップ維持に向け、SUVの現地化で攻勢かける ..... 145  
 18. BMW：現地組立工場を拡充しコスト競争力を強化、高級車シェアトップを目指す ..... 147  
 19. VWグループ：2014年以降に自社工場を開設する計画、現地組立車を増やし攻勢かける ..... 149

**第8章 自動車部品メーカーの事業動向** ..... 151  
**付録：Tier2/3サプライヤー、原材料サプライヤーリスト(アルファベット順)** ..... 201

**付録CD**  
 インドネシア部品企業ダイレクトリー/主要工業団地概要

**第8章掲載サプライヤー**  
 <現地系/欧米系サプライヤー>  
 Astra Otoparts(インドネシア)  
 Autoliv(スウェーデン)  
 Bosch(ドイツ)  
 Delphi(米国)  
 Dharma Polimetal(インドネシア)  
 Hankook Tire(韓国)  
 Mahle(ドイツ)  
 Mekar Armada Jaya(インドネシア)  
 Michelin(フランス)  
 Morita Tjokro Gearindo(インドネシア)  
 Murtistrada(インドネシア)  
 Pirelli(イタリア)  
 Visteon(米国)

<日系サプライヤー>  
 愛三工業  
 アイシングループ  
 曙ブレーキ工業  
 旭硝子  
 日光工業  
 アスカ  
 Ewindo  
 エクセディ  
 NOK  
 エフ・シー・シー  
 FTS  
 エフテック  
 河西工業  
 鬼怒川ゴム工業

ケーヒン  
 KYB  
 小糸製作所  
 三板工業  
 ジェイテクト  
 ジーエスアサコーポレーション  
 ジークラット  
 自動車部品工業  
 ショウワ  
 シロキ工業  
 新電元工業  
 住友電気工業  
 スタンレー電気  
 セーレン  
 大同メタル工業  
 タカタ  
 タチエス  
 中央精機  
 中央発條  
 ティ・エス テック  
 TDF  
 TPR  
 デンソー  
 ティラド  
 東海ゴム工業  
 東海理化  
 東京ラヂエーター製造  
 トビー工業  
 エフテック  
 豊田合機  
 豊田機械  
 豊田鉄工

トヨタ紡織  
 西川ゴム工業  
 日信工業  
 ニフコ  
 日鏡ハルブ  
 日本精工  
 日本精機  
 ニッパツ  
 日本ピストリング  
 日本プラス  
 パイオラックス  
 ハイレックスコーポレーション  
 フジオセックス  
 プリチストーン  
 フタバ産業  
 古河電気工業  
 プレス工業  
 ミクニ  
 三井金属  
 ミツバ  
 武蔵精密工業  
 矢崎総業  
 八千代工業  
 山下ゴム  
 ユタカ技研  
 ユニハンス  
 ユニプレス  
 ヨロズ  
 リケン

**現物案内のご紹介** フォーインでは、調査報告書のご採用可否の検討用として、お客様のご要望に応じて実際の調査報告書をお送り致しております。案内書やホームページだけでは、採用を決めかねているお客様の為に現物案内として、採用の可否を決定して頂くに必要な期間、ご覧になって頂くことが可能です。裏面の現物案内希望にチェックを入れてお問い合わせ頂ければ宅急便にて実際の報告書をお送り致します。詳細は、営業部(TEL:052-789-1101)までお問合せ下さい。

その他の見本ページも弊社ホームページでご覧頂けます



### インドネシア自動車産業の現状と将来を概観

第1章 総論

近年、FordがLCGCの投入を検討、Tata Motorsが現地生産を検討するなど、欧米メーカーに加えて、韓国系やインド系、中国系などの進出が見込まれる。ただしLCGC対応車を出した5メーカーは既に、巨額の投資を投下して強固なサプライチェーンを築こうとしており、輸入車のみで対応するメーカーや、今後現地生産を開始するメーカーは少ない。2009~2010年に日系5大メーカーがサプライチェーンを築きつつある中で、同等の競争力向上を確保し、低価格車での競争力を維持し、販売網を拡大することが求められる。また2013年半ば以降、ルビアの対ドルレートが上昇しており、鋼材や樹脂材料などを輸入に頼る自動車メーカーの収益を押し下げている。さらに Jakarta や Bekasi 県、Karawang 県などの賃金上昇や、工業団地の

燃料や電力料金の上昇などもあり、Tier2/Tier3 レベルまでの調達現地化は引き続き課題である。ダイハツやLCGCのAylaとトヨタAgvaを生産するKarawang工場へ最新のコンパット生産ラインを導入し、効率を上げるとして生産コストの低減を図るなど、最新鋭の生産技術で、競合メーカーの更なる先を指す動きも見られる。

競争力の向上を確保し、販売網を拡大することが求められる。また2013年半ば以降、ルビアの対ドルレートが上昇しており、鋼材や樹脂材料などを輸入に頼る自動車メーカーの収益を押し下げている。さらに Jakarta や Bekasi 県、Karawang 県などの賃金上昇や、工業団地の

【インドネシア、自動車産業の課題と取り組み】

- <事業環境のトレンド>
  - ルビアの対ドル為替レートの下落
  - 人件費の上昇
  - 電力・土地コストの上昇
  - 労働争議・ストライキ
  - 再販売価格の維持
- <事業環境の課題と取り組み>
  - 継続コストの低減
    - 二次・三次レベルの現地化
    - ローカルサプライヤーの育成
    - 日本など他国からの二次・三次サプライヤーの招聘
  - 生産コストの削減
    - 最新の生産技術の導入
    - 最新鋭のコンパット生産ライン等の導入
  - 労働法規諸問題を軸とした労務対策
    - 退出金向上の整備
    - 専門家を擁した助産
    - 合弁パートナーの活用
    - ローカルのマネージャークラスの育成
  - サービス網の整備
    - 全国展開中の3S店の整備
    - 小規模なサテライト店の整備
    - 安価で入手容易な補修部品
    - スペアパーツの現地調達
    - 後援団体の整備
    - 中古車事業の強化

【インドネシア、主な事業関連コスト推移】

- <ワーカー月賃給付率>
- <エンジニア月賃給付率>
- <マネージャー月賃給付率>
- <工業団地借入金格納率>
- <電気料金>
- <水道料金>

FOURIN インドネシア自動車・部品産業 2014

### インドネシアの人口・経済・政治などの基礎情報を収録

第2章 インドネシアの概況

**4. 世界第5位の人口規模、2013年には2億5千万人を突破する模様**

インドネシアの2013年2月時点の人口は2億3,764万人で、中国、インド、EU、米国に次ぐ世界で第5位である。1971年に1億2,000万人を超えてきた人口はここ40年間で倍増し、2013年中に2億5,000万人を突破すると見込まれる。年々増加する人口は、国内総生産(GDP)の成長を押し上げる一方で、全国的に貧困率も高まっている。特に注目すべきは人口の4分の1以上を構成する0~14歳の若年層である。2013年時点で1.49億人程度(CIA予測値)とみられるインドネシアの15~64歳の人口は、現在若年層の人々が成人に達する2020

【インドネシア、人口の推移(1971/1980/1990/2000/2010年)および2013年推計】

【インドネシア、年齢別人口構成比(2013年)】

【インドネシア、地域別人口構成比(2010年)】

【インドネシア、労働力構成及び失業率の推移(2004~2013年)】

FOURIN インドネシア自動車・部品産業 2014

### 自動車市場の現状を解説

第3章 自動車市場の概況

◇多額インセンティブをけん引役として小型車の成長が見込まれる  
 LCGCの認定を受けるためには、セダンとステーションワゴン以外での乗用車で規定される排気量と最小四駆半徑などの技術要件を満たせば、ボディスタイルは問われない。2013年11月までに投入又はその計画が発表されているモデルは日産のGo\*を除き全てがBセグメント以下で投入され、トヨタのAgva、日産のXenia、ダットsunのKarimun Wagon R が投入されるなど、Bセグメント以下の小型MPV市場が更に拡大することが懸念されている。また日産は、LCGCに適合させて価格が1億ルピア以下の小型MPVであるDatsun Goを2014年前半に投入する予定である。小型MPVで最廉価のダイハツXeniaよりも3,000万円以上価格が高いため、価格は競争力のあるモデルの投入が重要と見られる。またスズキAgva、日産Xeniaの投入により、Bセグメントの競争が激化する。住居スペースや貨物スペースの充実をセールスポイントとして、トヨタダイハツの牙城の突き崩しを狙っている。

【日産、2014年に投入予定のLCGC対応2モデル概要】

V日産 Datsun Go  
 <概要>  
 ・投入時期:2014年予定  
 ・エンジン:1.2L 3000cc  
 ・変速機:5速MT  
 ・サイズ:全長3,780mm、全幅1,630mm、全高1,480mm  
 ・ホイールベース:2,450mm  
 ・特長:  
 ・Bセグメントプラットフォームベースであるが、価格は1億ルピア以下に設定する方針。  
 ・燃費削減だけでなく、維持費なども含めて低コストで提供することを、トヨタの競争相手と見られる。  
 ・スマートフォンが操作可能で、スマホナビ、ナビの改良も予定。

VDatsun Go  
 <概要>  
 ・投入時期:2014年予定  
 ・エンジン:1.2L 3000cc  
 ・変速機:5速MT  
 ・サイズ:全長3,090mm、全幅1,630mm、全高1,480mm  
 ・ホイールベース:2,450mm  
 ・特長:  
 ・価格はGoと同様に1億ルピア以下に設定する計画。  
 ・LCGC認定まで、初の3車種投入となる見込み。ボディはコンパクトなデザインを得意とする、Xeniaと共通のプラットフォームが採用可能で、スマホナビ、ナビの改良も予定。

【インドネシア、小型MPV主要モデル対比表】

モデル	Datsun Go	ダイハツ Xenia	スズキ Ertiga
投入時期	2014年11月(仮定)	2013年11月(仮定)	2013年8月(仮定)
価格(万円)	1,200~1,800	1,800~2,500	1,800~2,500
全長(mm)	3,780	4,440	4,260
全幅(mm)	1,630	1,630	1,630
全高(mm)	1,480	1,480	1,480
ホイールベース(mm)	2,450	2,450	2,450
変速機	5速MT	5速MT	5速MT
乗員定員	7人	7人	7人
乗員乗車定員	7人	7人	7人
最大出力(kW)	50	50	50
燃費消費(L/100km)	7.0	7.0	7.0
安全装備	シートベルト、エアバッグ	シートベルト、エアバッグ	シートベルト、エアバッグ
主要安全装備	前席エアバッグ、助手席エアバッグ	前席エアバッグ、助手席エアバッグ	前席エアバッグ、助手席エアバッグ
主要安全装備	シートベルト、エアバッグ	シートベルト、エアバッグ	シートベルト、エアバッグ
安全装備	シートベルト、エアバッグ	シートベルト、エアバッグ	シートベルト、エアバッグ
備考	前席エアバッグは全乗員保護用、中級グレード以上は後席エアバッグも標準装備。乗上エアバッグはオプションで標準装備。	前席エアバッグは全乗員保護用、乗上エアバッグはオプションで標準装備。	前席エアバッグは全乗員保護用、乗上エアバッグはオプションで標準装備。

FOURIN インドネシア自動車・部品産業 2014